

基幹災害医療センターとしての災害対応力の向上を目指した継続的な災害体制の整備

新潟大学医歯学総合病院 杉田 洋子

【概要】

新潟大学医歯学総合病院は新潟県唯一の大学病院であり、災害拠点病院としての使命を持つ。さらに平成 23 年には基幹災害拠点医療センター、平成 24 年ドクターヘリ基地病院の指定も受けている。しかし、災害体制整備は進んでおらず、災害対応マニュアルが実践的でない事や、災害に関する職員間の温度差、災害用品の整備不足等の問題を感じていた。平成 23 年度には災害訓練を開催しているが、訓練からの気づきは災害対応マニュアル改訂等へ活かされず、看護職員からは災害時の対応に不安の声もあがっていた。そんな中、平成 25 年 5 月に災害対策委員会が組織される事が決まり、防災を担当する副看護部長として災害対策委員会に参画し、災害体制の整備に取り組む事となった。災害対応力の向上は、災害のない平時に行う訓練、その評価・改善の繰り返しによって成されるものである。災害対応マニュアルの改訂とアクションカードに基づいた災害訓練の開催を通じて体制整備を進め、基幹災害医療センターとしての災害対応力向上を目指した。

【背景】

新潟大学医歯学総合病院は新潟県唯一の大学病院であり、災害拠点病院としての使命を持つ。さらに平成 23 年には基幹災害拠点医療センター、平成 24 年ドクターヘリ基地病院の指定も受けている。しかし、災害体制整備は進んでおらず、災害対応マニュアルが実践的でない事や、災害に関する職員間の温度差、災害用品の整備不足等の問題を感じていた。平成 23 年度には災害訓練を開催しているが、訓練からの気づきは災害対応マニュアル改訂等へ活かされず、看護職員からは災害時の対応に不安の声もあがっていた。そんな中、平成 25 年 5 月に災害対策委員会が組織される事が決まり、防災を担当する副看護部長として災害対策委員会に参画し、災害体制の整備に取り組む事となった。災害対応力の向上は、災害のない平時に行う訓練、その評価・改善の繰り返しによって成されるものである。災害対応マニュアルの改訂とアクションカードに基づいた災害訓練の開催を通じて体制整備を進め、基幹災害医療センターとしての災害対応力向上を目指した。

【実践計画】

以下 4 点を重点課題として実践計画を立案した。

- ① 災害用資機材の整備
- ② 職員への災害基礎教育と啓発
- ③ 改訂版・災害対応マニュアルに基づいた災害訓練
- ④ 災害訓練を継続的に行う仕組みの構築

②～④に関しては、実践的な災害対応マニュアルへの改訂を先行して行い、災害対応マニュアルに基づいた訓練準備過程と実動型災害訓練を通じて、災害体制を整備し災害対応力の向上を目指す。

改訂版災害対応マニュアルにはアクションカードを盛り込む。アクションカードは看護部が最初に作成し、これを見本として各部門に作成を依頼する。災害訓練の準備の過程で職員への啓発と教育を行う計画とし、一連の手順を作成する事で、今後の継続的な災害対策整備の仕組みを作る。災害対策委員会では災害訓練の年度内開催を目標とし 11 月頃までにマニュアル改訂、3 月に訓練を開催する予定とした。看護部が中心的な役割を担うアクションカードについては、看護部災害ワーキングを構成し取り組む計

画とした。災害対策委員会は下部組織としてマニュアル改訂ワーキングと訓練企画ワーキングを持つ。看護部門は両方に参加し、訓練ワーキングにおいてはリーダーを務める。

【結果】

災害用資機材の整備は、救命センター、事務部門、看護部が共同して行った。看護部では防災用品の充実と避難用具を中心に計画し、2月初旬に予定の資機材の配備は完了した。防災用品は各部署で不足していたが、定数を見直し配置数を増やした。避難用具は購入後年数が経過していた為、メーカー点検を実施した上で、不足数を判断し補充した。

災害対応マニュアルの改訂作業は、問題点が次々に上がったが改訂の方向性を決める事ができず難航した。その為、マニュアル改訂ワーキングのコアメンバーである救命センター・事務部・看護部の打合せ会の形で進め、この中で東北大学病院を参考にした改訂を提案した。東北大学病院に資料提供を依頼し、この資料を基に救命センター長がたたき案作成を引き受ける事になり抜本的な改訂となった。改訂版災害対応マニュアルには、災害モードの変更、指揮命令系統図の変更、これまで別仕様であった火災時の対応を統合、さらに、アクションカードと災害訓練を明記して継続的な災害体制が示された。災害対応マニュアルは、平成26年1月に災害対策委員会で最終意見をまとめ、2月の病院会議で承認手続きを経た後、病院職員への公開に至っている。

アクションカードを用いた災害訓練開催は、災害対応マニュアル改訂に時間を要した事から、年度内開催を取りやめ次年度開催に変更となった。しかし、看護部ワーキングにおいて、災害対応マニュアル改訂を見据えながら併行して作業を進め、火災アクションカードと災害アクションカード（地震用）を作成する事ができた。火災アクションカードについては、9月開催の消防訓練において実際に使用できるよう最初に作成し、これを全体のフォーマットとして災害アクションカード作成に繋げている。消防訓練は訓練内容をアレンジし、全部署がアクションカードを用いて参加できるよう企画した。消防訓練後のアンケートでは、緊急事態における行動がわかり安心感につながる等の意見が占めた。また、火災アクションカードの他に、「防災知識の自己チェックシート」、「火災チェックシート」を作成して使用した。火災チェックシートによりわからない点が明確になったとの意見が多く、防災知識の向上の為に、定期的を使用するよう提案があがっている。

災害訓練前に先立ち、例年開催している消防訓練でアクションカードを使用した事は、看護師だけでなく他職種に対してもアクションカードの認知度を高める効果があった。看護部作成のアクションカードを1月開催の災害対策委員会で提示し、次年度開催の災害訓練につなげるよう各部門にアクションカード作成を呼びかけた。

【評価及び今後の課題】

災害資機材については配置計画に基づき全て配置できた。これらの定期的な点検や運用の仕組みは次の課題となる。改訂版災害対応マニュアルに基づいた災害訓練は平成26年度に先送りとなった。しかし、すでに災害対策委員会の下部組織である災害訓練ワーキングが訓練企画を担う事が決まっている。災害基礎教育と啓蒙を盛り込んだ具体的な研修企画と、アクションカードを用いた災害訓練開催については、引き続き次の取組み課題としたい。